



e-ColorComic

【フルカラー成人版】 Venus Blood

BRAVE

ヴィーナスブラッド-ブレイヴ-

第 1 話

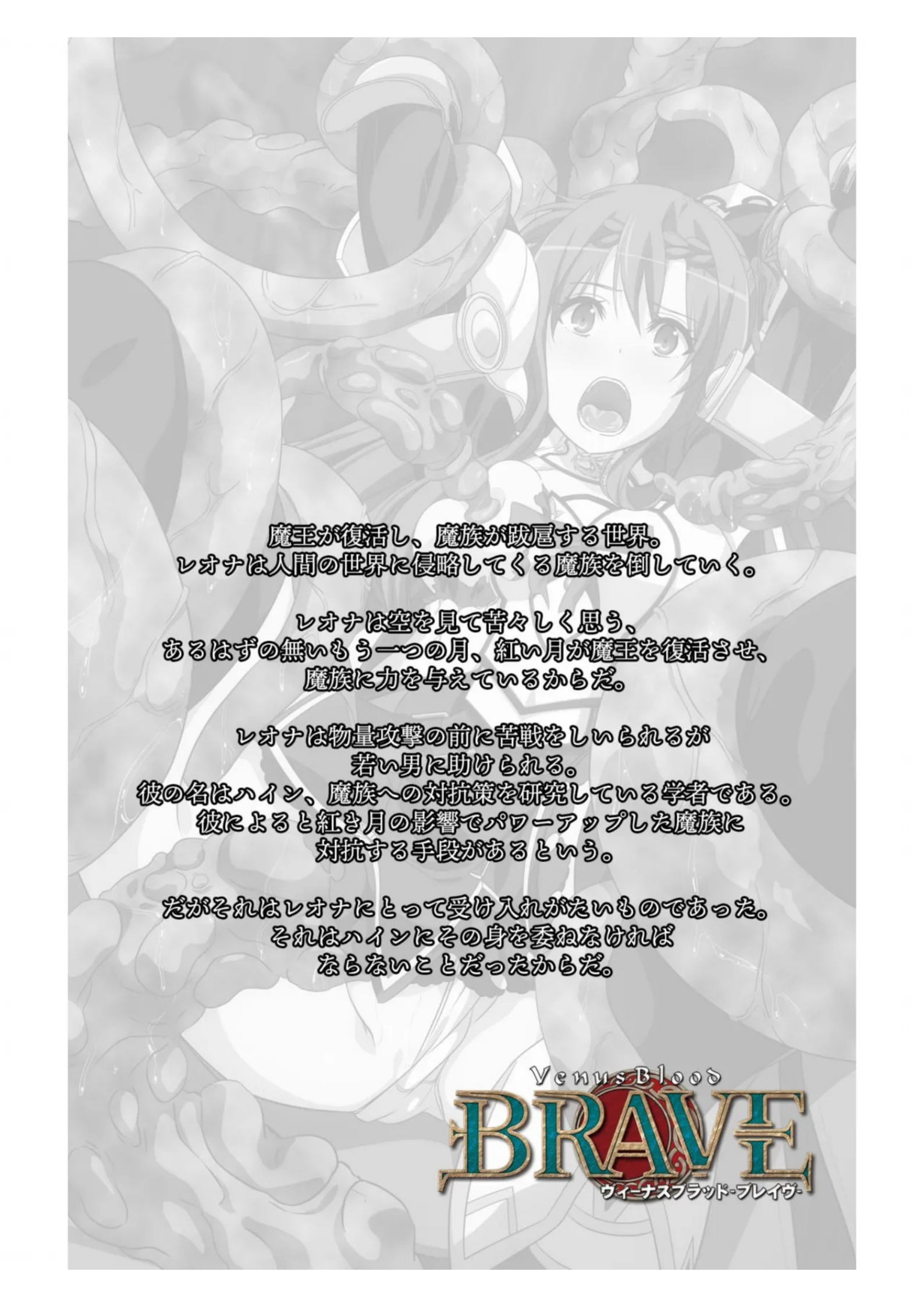
紅き月下にうごめく触手たち

著者

dualtail

出版社

TMEプラス



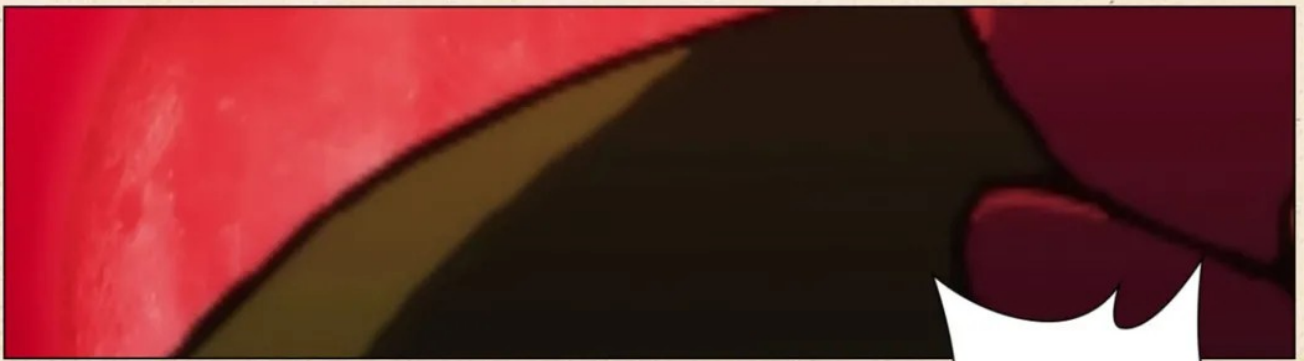
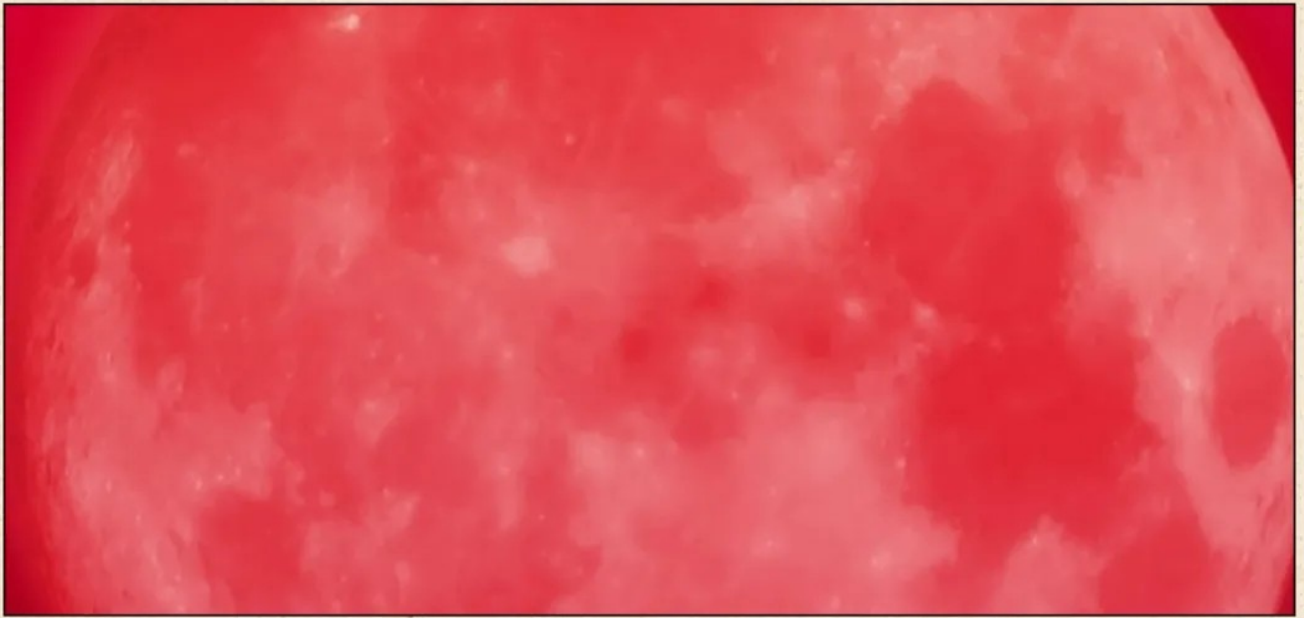
魔王が復活し、魔族が跋扈する世界。
レオナは人間の世界に侵略してくる魔族を倒していく。

レオナは空を見て苦々しく思う、
あるはずの無いもう一つの月、紅い月が魔王を復活させ、
魔族に力を与えているからだ。

レオナは物量攻撃の前に苦戦をしいられるが
若い男に助けられる。
彼の名はハイン、魔族への対抗策を研究している学者である。
彼によると紅き月の影響でパワーアップした魔族に
対抗する手段があるという。

だがそれはレオナにとって受け入れがたいものであった。
それはハインにその身を委ねなければ
ならないことだったからだ。

Venus Blood
BRAVE
ヴィーナスブラッド・ブレイヴ



あっはっはっ!
今宵は血の満月!

我等魔族の力が
最大に発揮される時





血の満月とはいえ
派手にやっているな



こんなところに
まだ人が残って
いたのか



抵抗するなよ
おとなしくしてれば
殺しはしねえ





うぎゃあああっ！




お前は…？



大丈夫？



最近この街に来た
勇者だったか？



あら 私も有名に
なったものね

それよりここは
危険よ



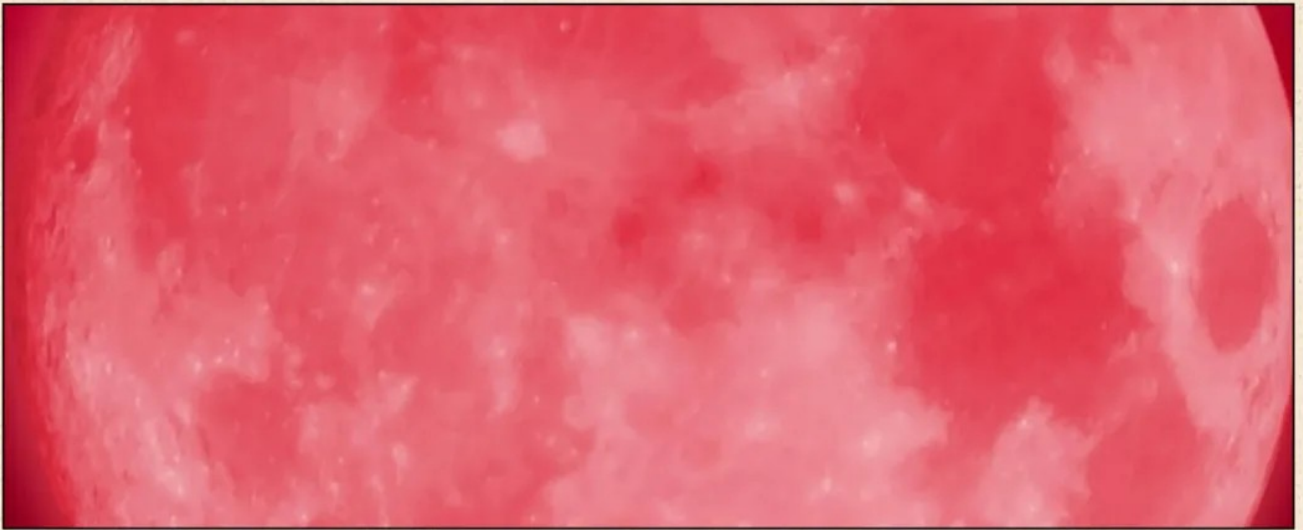
この先に避難所が
あるから
そこまで走って



ご主人様

シーラか

面白いものを
見つけた 追うぞ





いやあぁっ！

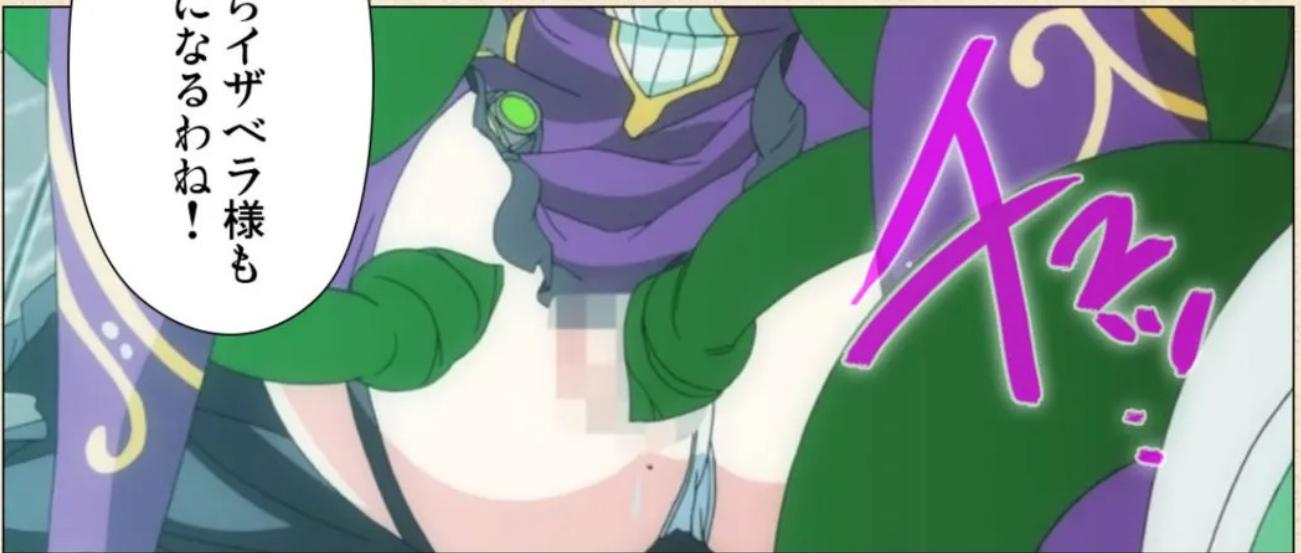


こいつは…
ランクBか

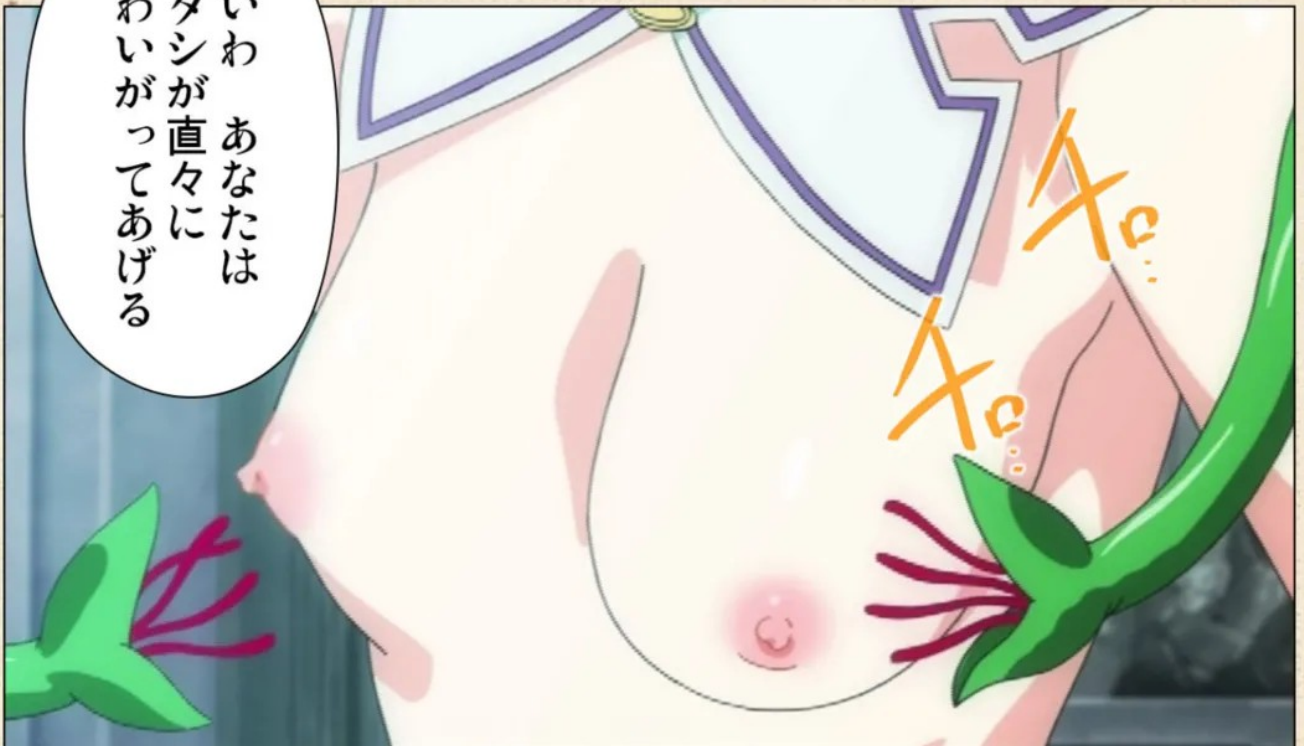


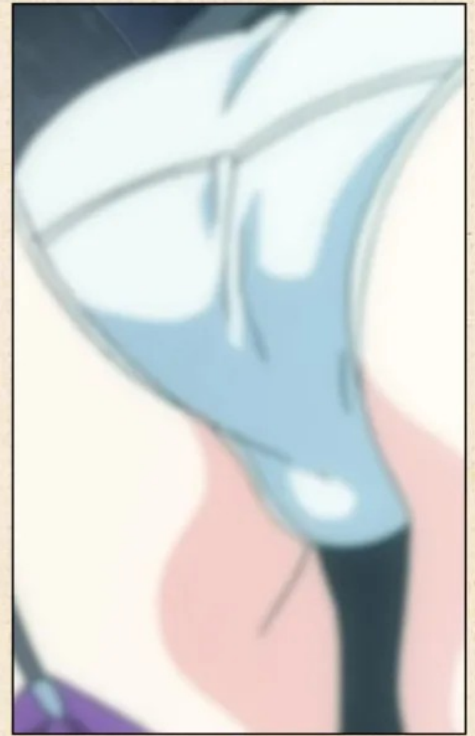
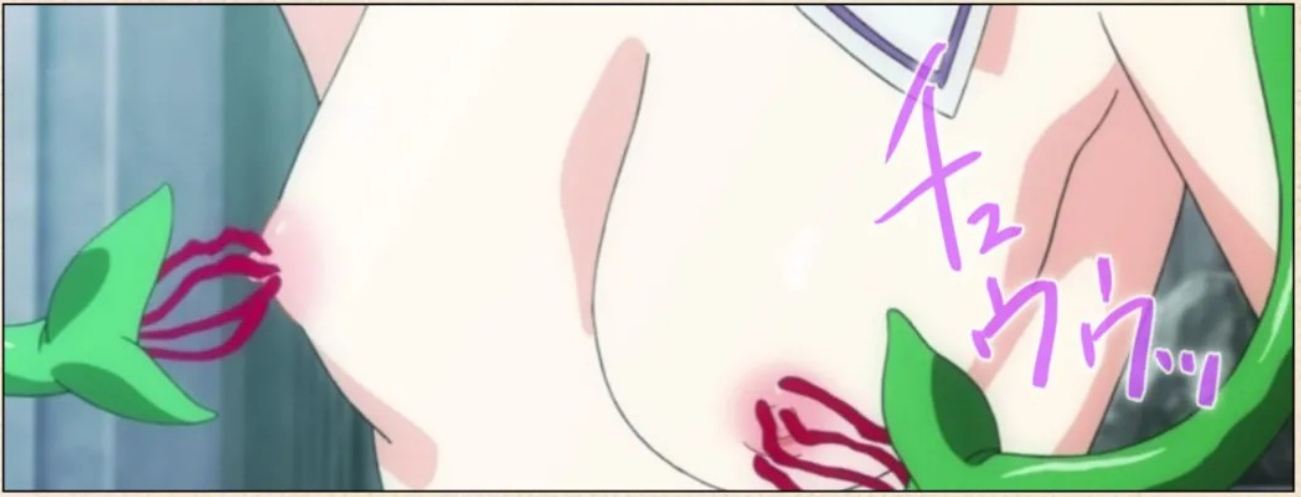
大漁大漁！
魔力は軒並み
C〜Dランク

これならイザベラ様も
お喜びになるわね！



アッ！







あー…



わかりました！



お願いします…

こ…殺さないで…



抵抗さえしなければ
むやみやたらに
殺しはしないんだから

ちょっと
そんな怯えない
でよねー







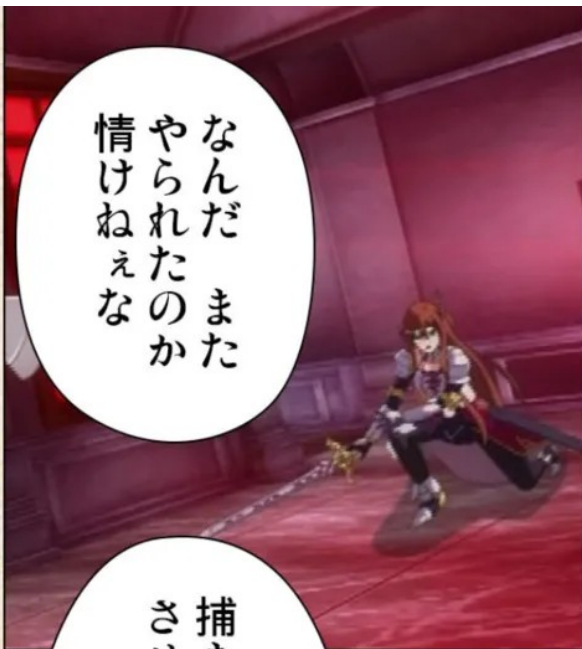
いいんですか？
ヨーキ様に黙って
犯っちゃまって

きちんと仕事は
やってるんだ
2, 3人こちらに
回してもらったって
ヨーキ様も
文句言わねえさ

い...いや...
やめて...

これ以上
やられたら
壊れちゃう...!

なあ！
そこの姉ちゃんも
そう思うだろ



なんだ また
 やられたのか
 情けねえな



ぐきやめめじー！




捕まえたやつに好きに
 させてやるっつってんだ

しっかり気張れよ

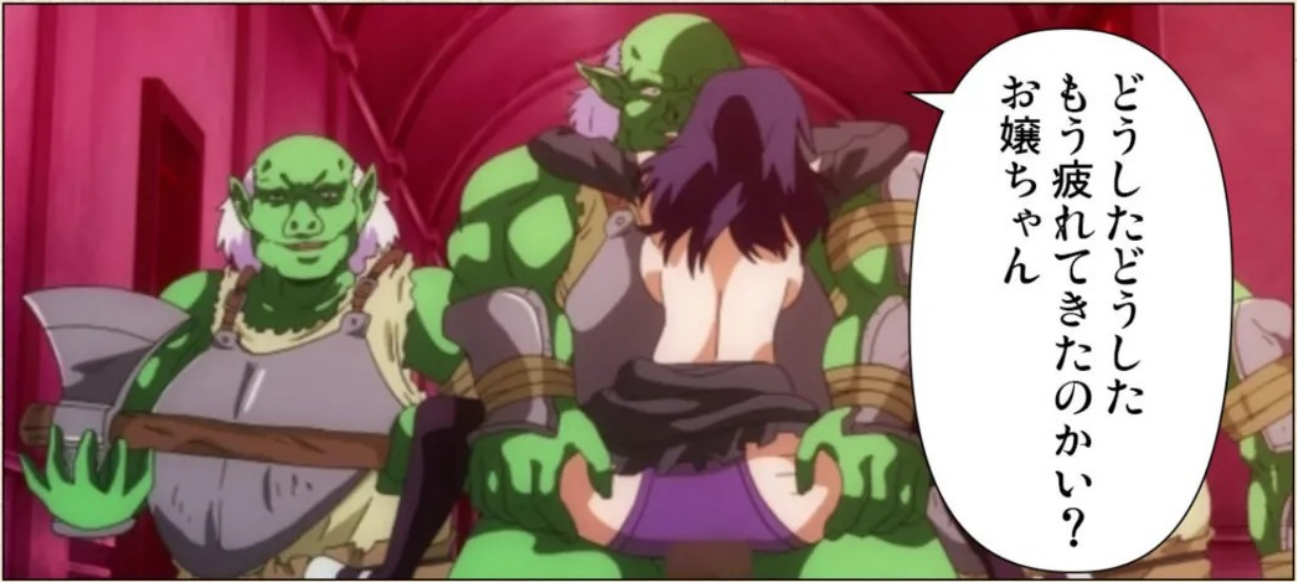
ー？

ー？




くっ… 普段なら
こんな下級の魔族なんて
物の数じゃないのに

血の満月の日は
本当に厄介ね！
魔力も残りわずか…
どうすれば…



どうしたどうした
もう疲れてきたのかい？
お嬢ちゃん



自分が無力な
人間のメス
だって事を
教育して
やらねえと
なあ！



おい
こっちだ豚共

ズッ
ズッ



ズッ
ズッ



な…
なんじゃこりゃ…?

か…身体が
重くなつて…

アアアアア





大丈夫？



はっ？



人体には
影響ないから
安心しろ

その煙は
魔物にしか
効果はない



キミは
さっきの？

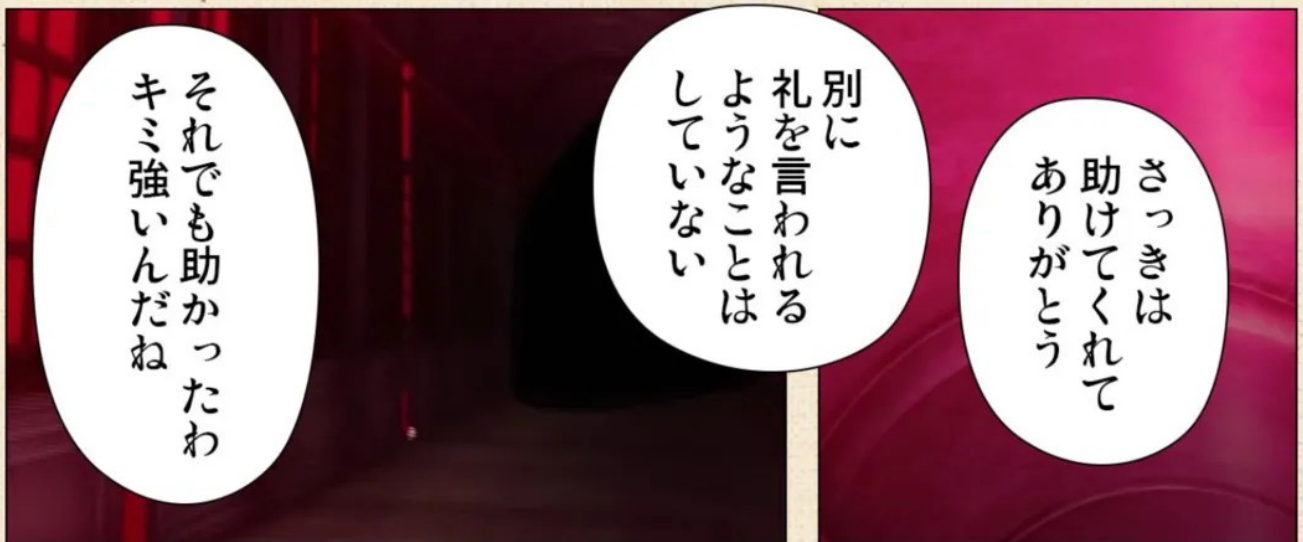
あ…あの！
この奥に魔物に
捕まった娘が
一人残っているん
です

どうか
お助けください



任せて その娘は
ワタシが助け出して
あげる

だから
あなたは
安心してここを
離れなさい



さっきは
助けてくれて
ありがとう

別に
礼を言われる
ようなことは
していない

それでも助かったわ
キミ強いんだね



ハイン

えっ？



ハイン
ルヴォルガール

俺の名だ

紅き月と魔族への
対抗策を研究していた
神殿付きの魔学者だ



私はレオナ

レオナ
リアマラルルよ

魔王を倒すために
旅をしている竜の
勇者よ



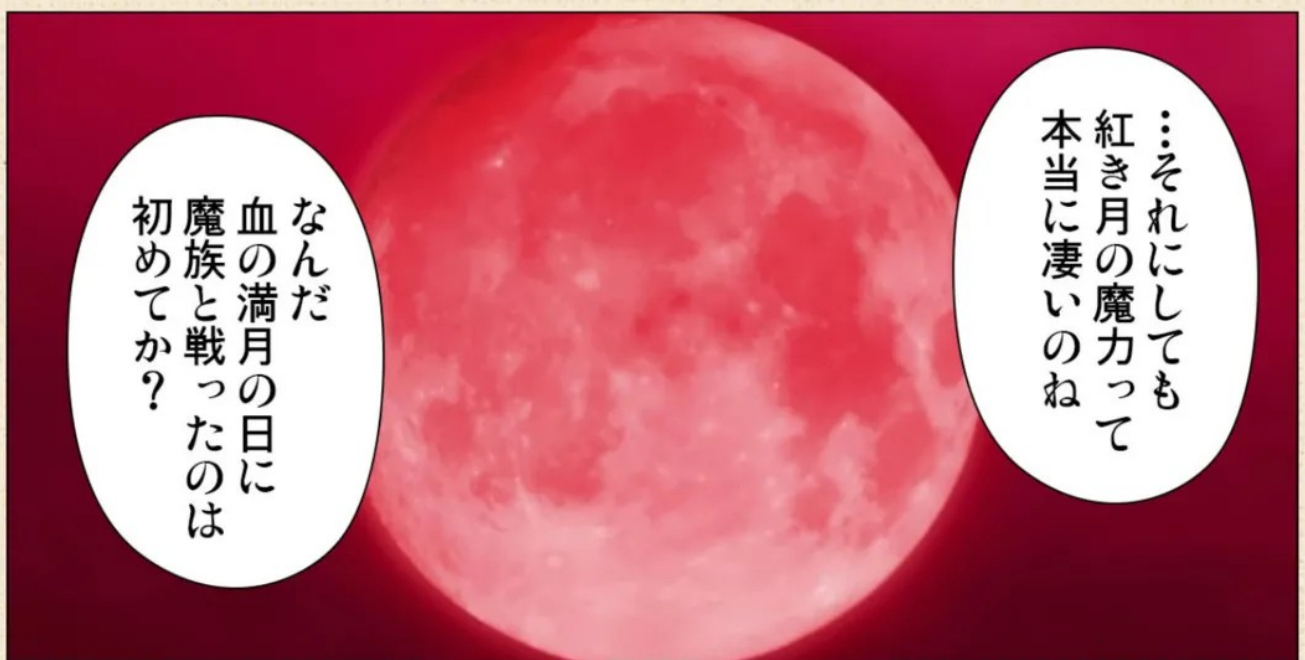
堅苦しいのは その代わり
苦手だから こっちも
ハインでいい レオナと
呼ばせて
もらう

それじゃあ
よろしくね!

ハイン!




……ああ



…それにしても
紅き月の魔力って
本当に凄いのね

なんだ
血の満月の日に
魔族と戦ったのは
初めてか?



ううん
一体や二体なら
戦ったことがあるけど
あんなに大勢を
相手にしたのは初めて

紅き月 魔王ラーガル復活と
時を同じくして
本来の月とは別に
空に現れた禍々しき紅月





その月が放つ光は
生物：特に魔族に
多大な影響を与える



光を浴びた生物を
激しい興奮状態に陥らせ
理想のタガを外れやすくさせる





その影響が最も強くなる
血の満月ともなれば

アツル

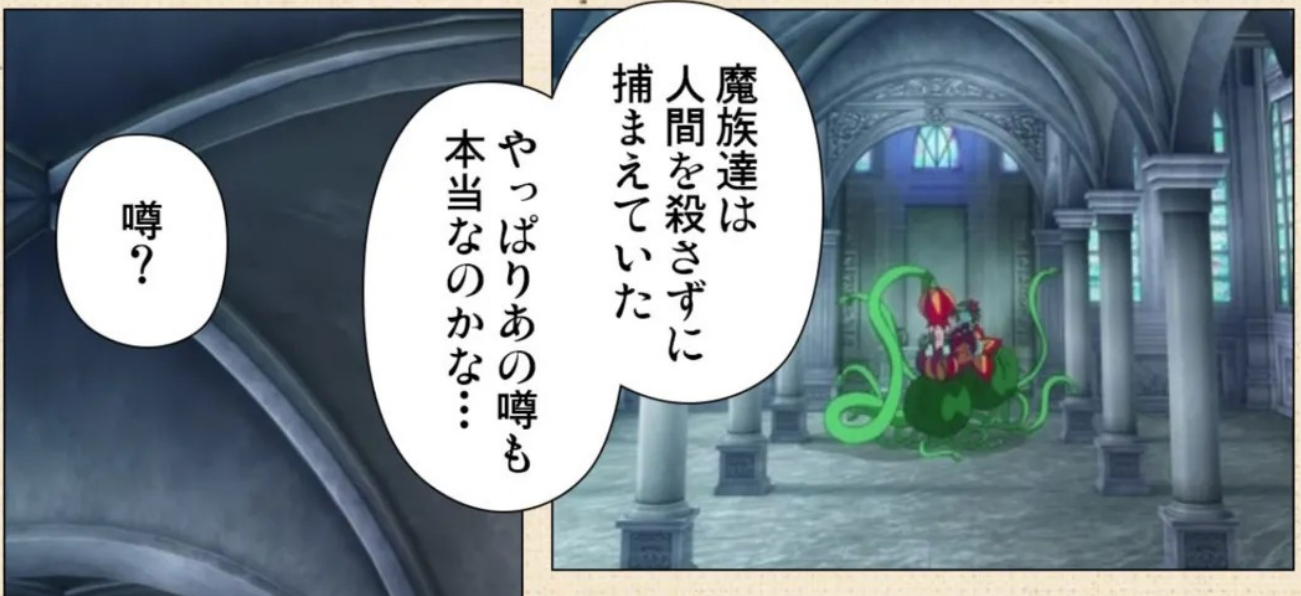
アツル



『紅き月が満ちる日は
いずこかの人の街が
滅び去る』

…と噂されている
くらいだ

んんん!!



魔族達は
人間を殺さずに
捕まえていた

やっぱりあの噂も
本当なのかな…

噂？



ああ
 捕らえられた人間が
 産卵母胎や種馬に
 されるって話か



事実だ
 魔族は単独で繁殖できる
 種族は少ない



人間は魔族のどの種族にも
 適応することができて
 繁殖するのに都合のいい種族だ




だから
魔族を増やすために
利用する

やっぱりそうなんだ…
詳しいんだね

まあ そういう研究を
専門にしてきたからな




しっ…



この先から強力な
気配がする…

さっきの人が言ってた
ヨーキって呼ばれてた
アルラウネはこの先に
いるはず

捕まった人の事を
考えると
これ以上時間が
過ぎると
まずいわ…
ここは一気に…



まあ待て

バカ正直に正面から
ぶつかる必要も
無いだろう

俺に考えがある
耳を貸せ







私はレオナ

通りすがりの…
ただの勇者よ

勇者…？



自称勇者は今まで
ごまんと見てきたけど
あんたみたいなの
ガキンチョが勇者を
名乗るのは初めて
見たわ！

で そちらのフード
かぶったあんたは？
勇者のお守り？



その娘は
返してもらおうわ

覚悟しなさい！

キッ！



ふん…
やれるものなら
れってみなっ!

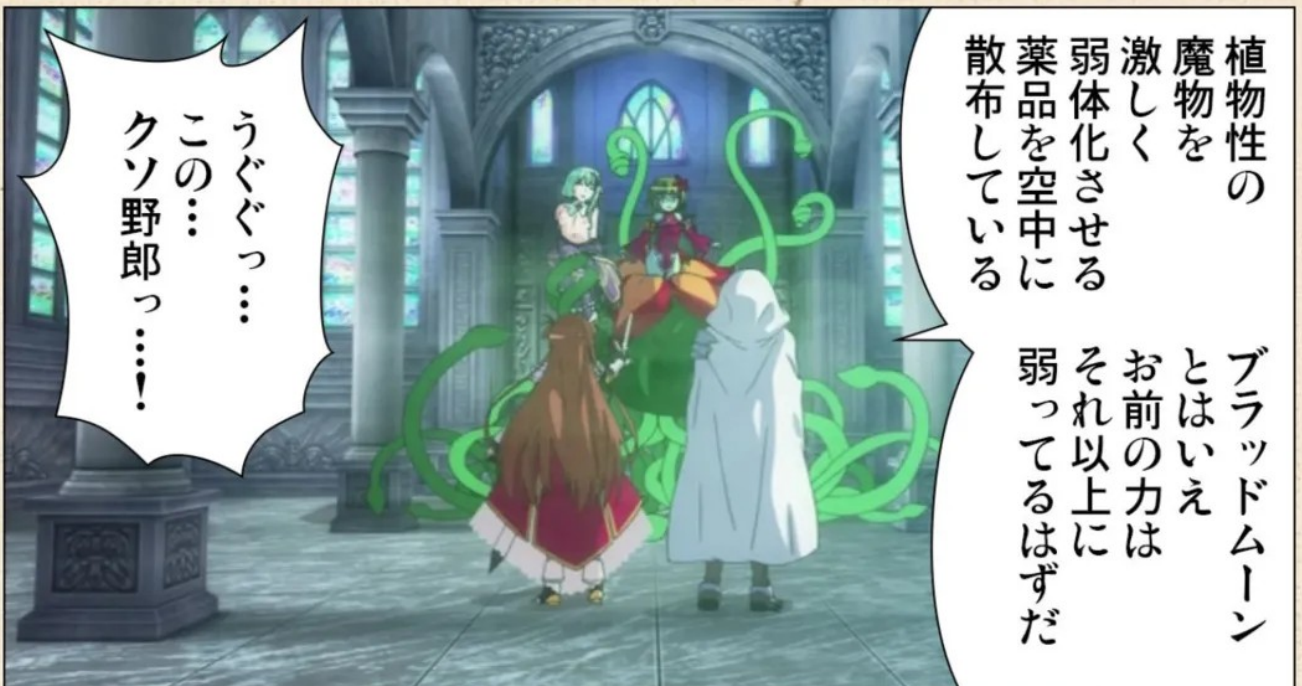


お…おかしい…
力が出ない…?

うぐっ…



アアアア…



植物性の
魔物を
激しく
弱体化させる
薬品を空中に
散布している

ブラッドムーン
とはいえ
お前の力は
それ以上に
弱ってるはずだ

うぐぐっ…
この…
クソ野郎っ…!











裏切り者？

まさかイザベラ様が
捕らえなさいと
言ってた
裏切り者の魔族……！

な……ななっ……
なんで魔族が人間に
味方してるのよっ!?



……それよりも
覚悟するんだな



そいつは
お前さんの想像に
任せるよ



正体を知られた以上
大人しく帰す訳には
いかなかった







大見得切った割には
小賢しい手を使う

ご主人様
何やら
この煙には
強い毒性が
混ざっている
ようです

これ以上は無理だな
…戻るぞシーラ

はい
ご主人様





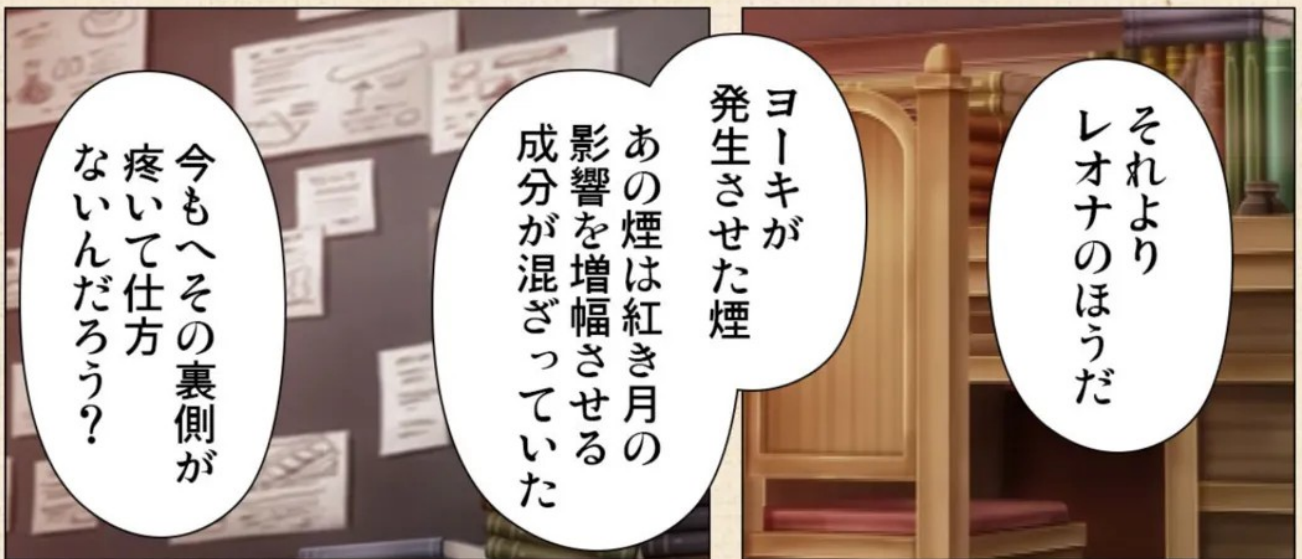


それでキミは一体
何者なの？

魔族のキミが
私に協力するなんて
何が目的？

悪いがその理由に
関していま話すことは
できない

話した所であまり
意味がないからな



それより
レオナのほうだ

ヨーキが
発生させた煙

あの煙は紅き月の
影響を増幅させる
成分が混ざっていた

今もへその裏側が
疼いて仕方
ないんだらう？



き…キミには
関係ない
話でしょ!!



もし恒久的な耐性を
得られる方法が
あると言ったら？




なに
簡単なことだ

俺に
犯されればいい



…え？
本当にそんな
方法が…？

何をすれば
いいの？




心配するな
お前は何もせず
ただ流れに身を
任せていればいい

痛いどころか
とっておきの快楽を
提供してやるぜ



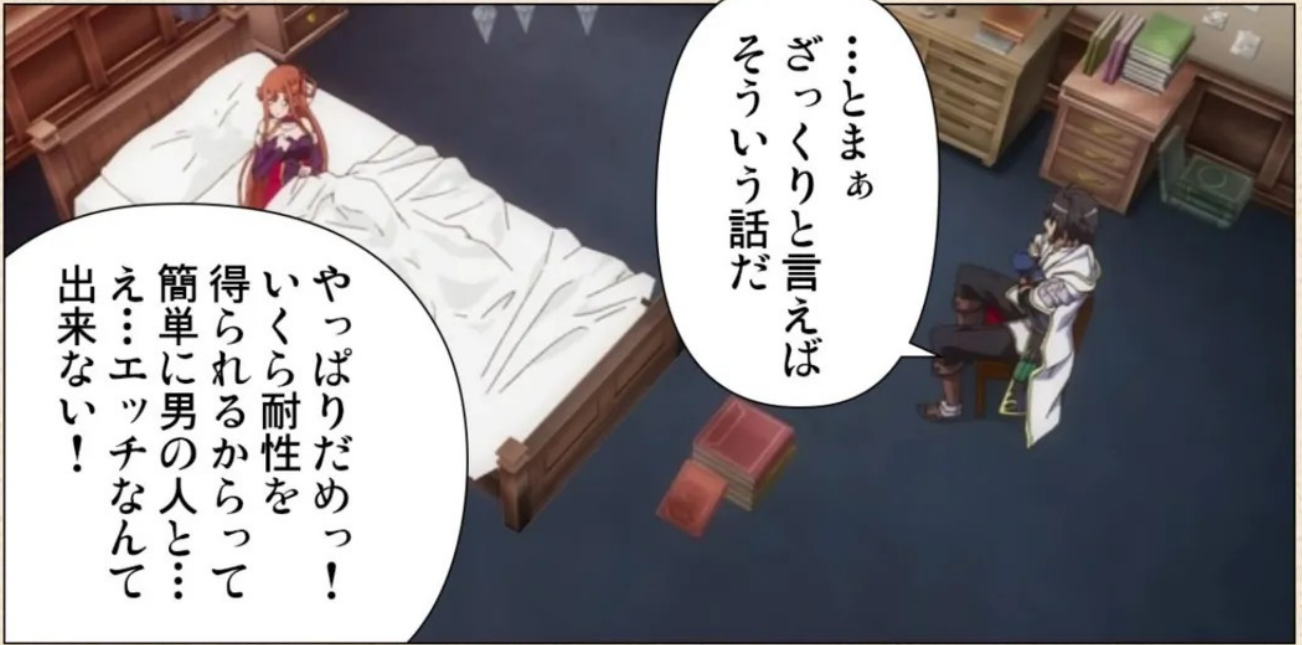
む…無理！
無理無理無理！
絶対に無理っ！

というかなんで…
だ…抱かれないと
いけないのよ！



魔力というのは なら
本人の許容量を 超えないよう
超えてしまえば その器を
毒になる 広げればいい

今 お前の体内で
過剰に精製されている
魔力を俺が体内から吸収し
同時に魔力の受け皿である
魔力炉を拡張し
許容量を増やす





どうもこうも無い
お前が強情だから
無理やり犯そうと
しているだけだが

ちよ…
ちよっと待って！
これはどういう
つもり!?

あ?!

いけしゃあしゃあと
よくも……!

な……なんなのよ
この変な生き物は!

アハ!

アハ!

こいつらは俺の
研究成果だ
一本一本がそれぞれ
意思を持ちつつも
根っことは俺と
接続されている

種類も豊富で
力の強弱も
自由自在

……ま 要するに
使い魔みたいな
もんだ

こんな悪趣味な
使い魔……聞いたこと
ないわ……!





こんな責め…
大したこと
ないんだからあっ…!!

この…!!
人をこんな
化け物に
好きにさせて
笑って観察する
だなんて…
あり得ないっ!



あぁあぁっ!



ちよ…
ちよつと待って…!!
そこはダメ…!!



ひゃっ!



こんなの…
し…知らないっ…!!

んんっ!
やめっ…



なんだから身体が
熱くなってきて…
頭もボーツと…

ダメ…流されたら
ダメなんだから…!

あぁ…



ま…待って…
それは…
それだけはダメ…!



ハ…ハイン…
これが終わったら
覚えておきなさいっ!



安心しろ
痛いのは
最初だけだ

慣れれば気持ち
よくなる



好き勝手なこと
言っていないで
今すぐこの化け物
たちから解放
してよっ…!!

まあ処女膜破られて
いきなり気持ち
よくなる訳はないわな

だが気持ちよく
なるのはこれからだ

ズッ
ズッ



ぜ…全然気持ち
よくなんかならない
じゃないっ!

フムフム…



ガッ!
ガッ!



ひゃああっ!

ドクン
ドクン
ドクン

ドクン
ドクン



な…なに…
これ!

お腹の底から
何かが…
吸われて…!

始まったか…
その感覚は触手が
お前から魔力を
吸い上げている
ものだ



わ…
私の魔力を…?

魔力を精製する
力を持つ生物学器官…
女の子の子宮は
その中でも
随一の精製量を誇る

そこからレオナの
魔力をいただく

意識を保ったまま
魔力を吸い取られる
感覚はまず味わえない
かわな

その感覚を
しっかりと子宮に
刻み込んでおけ

アッ

アッ





やめっ…
やめてっ…

はあっ…

すっかりと
吸魔セックスに
ハマっちまった
みたいだな



だ…誰がこんな
化け物とのエッチに
ハマるもんですか！

私はこんな
触手になんか
絶対負けたり
しないんだから！



びびろっー！



んうう……!



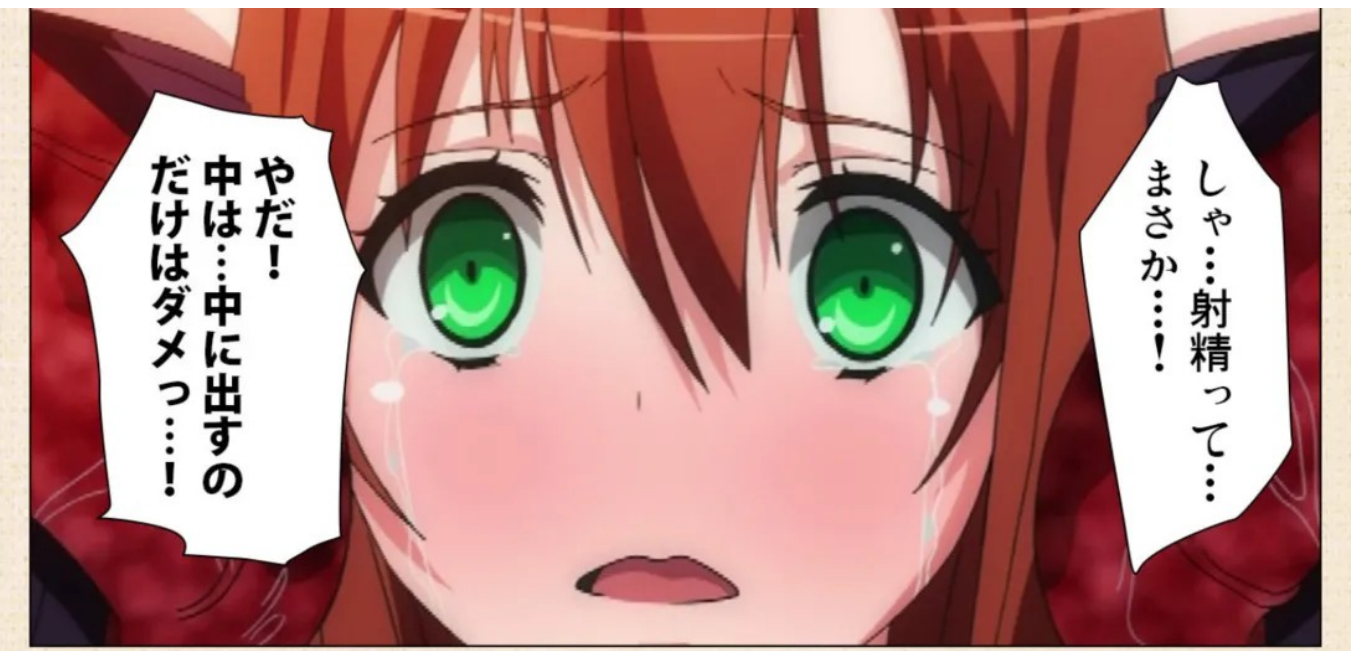
お腹……
溶けちゃうっ……!

ダメッ!
それダメッ!



最後は触手共の
射精で天国に
連れてってやるぜ!

いい顔だ!



しゃ…射精って…
まさか…!

やだ!
中は…中に出すの
だけはダメっ…!



んあっ!

ひいっ…

ブッ

ブッ

んあっ!



頭…おかしく
なっちゃう…!

んあっ!



ダメ…
ダメよ…
これ…!

んあっ!



ダメッ…
もう止めてええっ！

来るっ…
イクっ…



お前の記憶に
しっかりとし
刻み込まれるよう
たっぷりと
イかせてやるっ！



い…イク…！

イクっっっっっ！





先程触手が
流し込んだ精液は
特別製でな

魔力を吸収して
急速に成長する子種が
仕込まれている



そ…それって…

これからお前には
卵を産んでもらう



たま…ご…？
イヤあああっ！

こんなの…
信じられないっ！
だって…犯すだけ
だって…！！

ただイカせた
だけでは
その場のしぎに
しかならん

紅き月の耐性を
上げるには
卵を産まない
いけないだよ

んっ…
んくううっ…!

ダメ…!!
赤ちゃん産むなんて
ダメええ…!!

な…なんで…
これ…!!

変な感じに…!!



や...やだっ...!!

あぁあ...

はぁ



どうだ
気持ちいいだろ?



あぁあ...



俺が施す産卵は
特別製だからな

分娩の痛みとは
程遠い 極上の快樂が
押し寄せているはずだ






私…卵…
産んじやった…

初めてだったのに…


はぁ

触手の卵を……





おかしい…
こんなのおかしい…



どうして…
こんなことされたのに…
気持ちいいのよ…

To Be Continued...

e-ColorComic

【フルカラー成人版】 Venus Blood

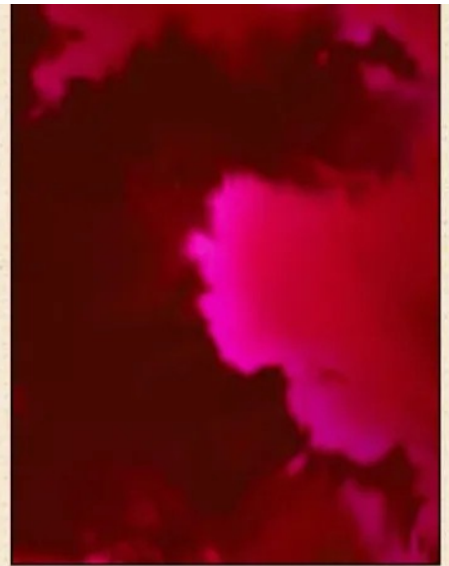
BRAVE

ヴィナスブラッド・ブレイヴ

第2話 生娘は触手の海にいだかれる

予告編

dualtail
TMEプラス





こんなところに
魔族が…
ヨーキの差し金？



それにしても
身体が軽い…

あいつの言ったことは
本当だというの…？



いや…



あんなことを
するなんて…

助けてくれた時は
いいヤツだって
思ってたのに…



はあ

あ



結局 魔族
なんじゃない！



一瞬でも
信用した私が
バカだったわ！



アハハ



グギヤギヤ……！！





つづきは—

【フルカラー成人版】
ヴィーナズブラッド-ブレイブ-
第2話 生娘は触手の海にいだかれる

でお楽しみください



e-ColorComic



e-ColorComic

【フルカラー成人版】

ヴィーナスブラッド-ブレイヴ-
第1話
紅き月下にうごめく触手たち

出版社 TMEプラス

© dualtail/メディアバンク/メリー・ジェーン